

旧岩田家住宅（県重宝）



奥を野菜や薬草を栽培する菜園として利用するほか、柿や梅などの果樹やクコなど薬用となる木も多く植えています。

建物は、今から約 210 年ほど前の寛政年間末から文化年間に建てられた武士の住居で、数回の改造後、岩田家が入居した明治時代には使用人の部屋などを増築し規模が大きくなりましたが、柱や小屋組などの主要構造部材、茅葺屋根などはほぼ建築当初のまま現在に残っています。

各部屋の中で玄関から続く広間と座敷が接客部分にあたり、常居より北側が日常の生活に使われる部分です。このように式台の玄関をもち、日常の生活空間を通らずに座敷へ行くことのできる間取りが、武家住宅の特徴のひとつとなっています。

近年、市内の武家住宅の多くが姿を消してしまった中で、この旧岩田家住宅は、江戸時代後期の武士の生活を知る貴重な建築物として、昭和 60 年には県重宝に指定されています。

岩田家



右 故 岩田夏城氏
（小野派一刀流）

及び代々岩田家に伝えられてきた掛軸等の大半がご遺族より弘前市博物館に寄贈されています。

上杉謙信に仕えた岩田大善吉勝を初代とする岩田家が津軽藩の御家中になったのは、4 代衛門兵衛恵孝のときからです。岩田家は代々学問と武芸の両道に優れた家系で、13 代目の岩田夏城氏も一生を剣の道に捧げた人です。

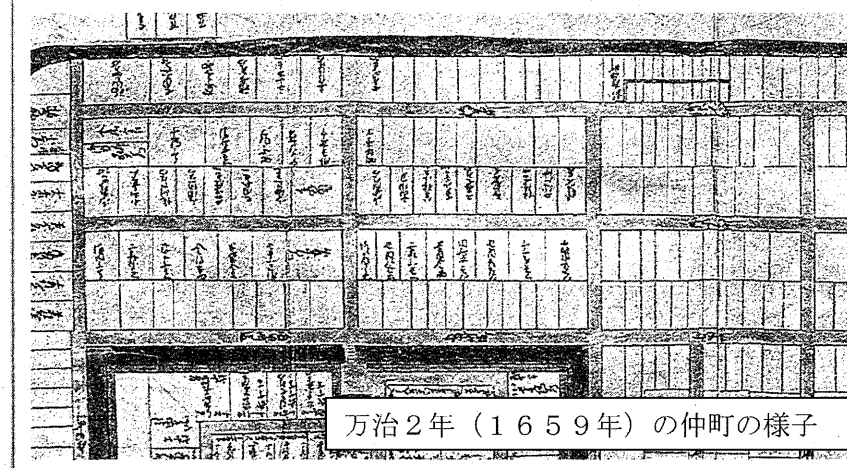
一方で書画骨董にも興味を持ち、夏城氏の収蔵品

◆ 記念スタンプ ◆

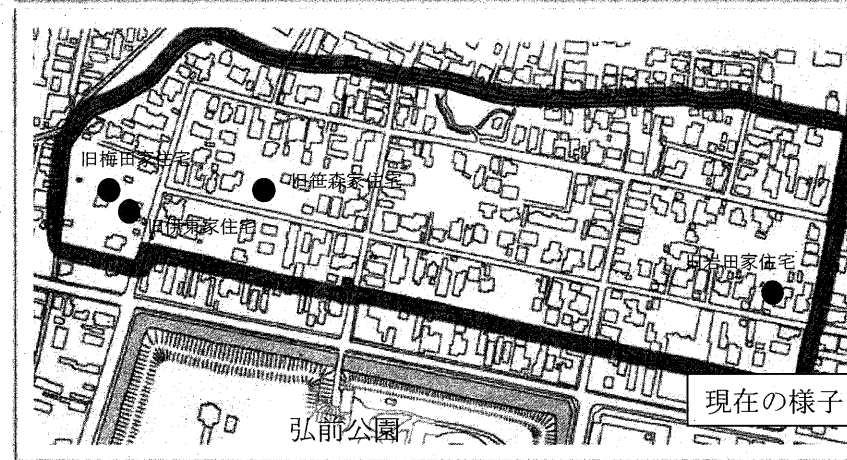
この建物は、門、土地ともに、仲町地区の保存を積極的にすすめていた故岩田夏城氏のご遺志により、昭和 56 年 8 月、ご遺族から市へご寄贈いただいたものです。市では修理工事を行い、井戸小屋、庭なども整備して、昭和 58 年 4 月から一般に公開しています。

間口約 16m、奥行き約 43 m の細長い敷地は、藩政時代から殆ど変わっていないものと思われます。建物は道路から 9m ほど離れて建ち、その間が庭になっています。建物の背面にも小さな庭をしつらえ、更にその

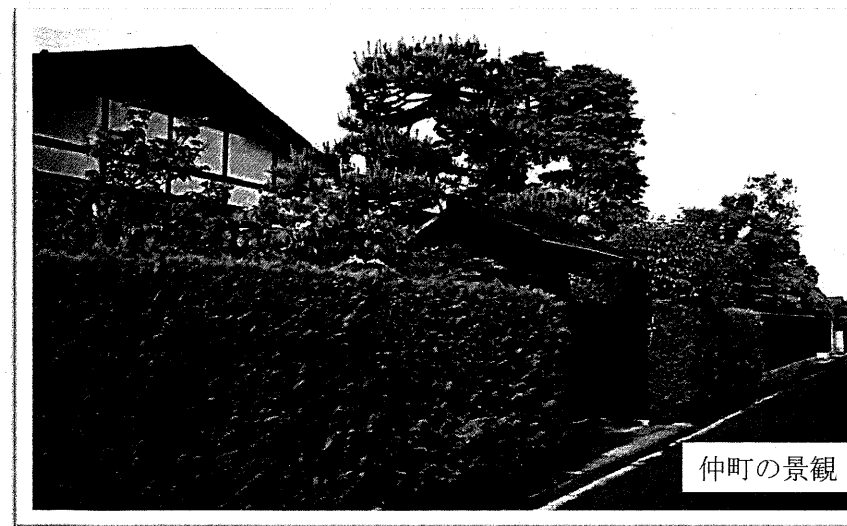
弘前市仲町伝統的建造物群保存地区



万治 2 年（1659 年）の仲町の様子



現在の様子



仲町の景観

仲町（なかちょう）

弘前は、慶長 8 年（1603 年）に津軽藩初代藩主為信が計画し、2 代信枚によって同 16 年に築かれた城下町です。城郭は、4 代信政に変更されるまで城の追手門（表門）は北門（亀甲門）とされ、正面を北に構えていたと伝えられています。

保存地区は、この追手の守護のため、藩重臣の子弟を配置した数ヶ町の侍町の一区画にあたり、江戸時代を通じて重要な役割をはたしてきたところです。

江戸時代の主屋もさることながら、その前面に坪庭を持つ屋敷の地割が良く残り、昔ながらの門や板塀、サワラ生垣などが伝統的な街並みを形成しているところから、貴重な歴史的文化遺産として、昭和 53 年、国の「重要伝統的建造物群保存地区」の選定を受けています。

公開武家住宅案内

仲町地区には、藩政時代に建築された武家住宅が保存され、当時の武士の生活を知る貴重な建物となっています。

弘前市ではこれまで、旧伊東家住宅・旧梅田家住宅、旧笹森家住宅、旧岩田家住宅の計 4 棟について寄贈を受け、伝建地区整備の一環として移築・復原し、一般に公開しております。

- ・開館時間：午前 10 時～午後 4 時
- ・入館料：無料
- ・お問合せ：弘前市教育委員会

文化財課

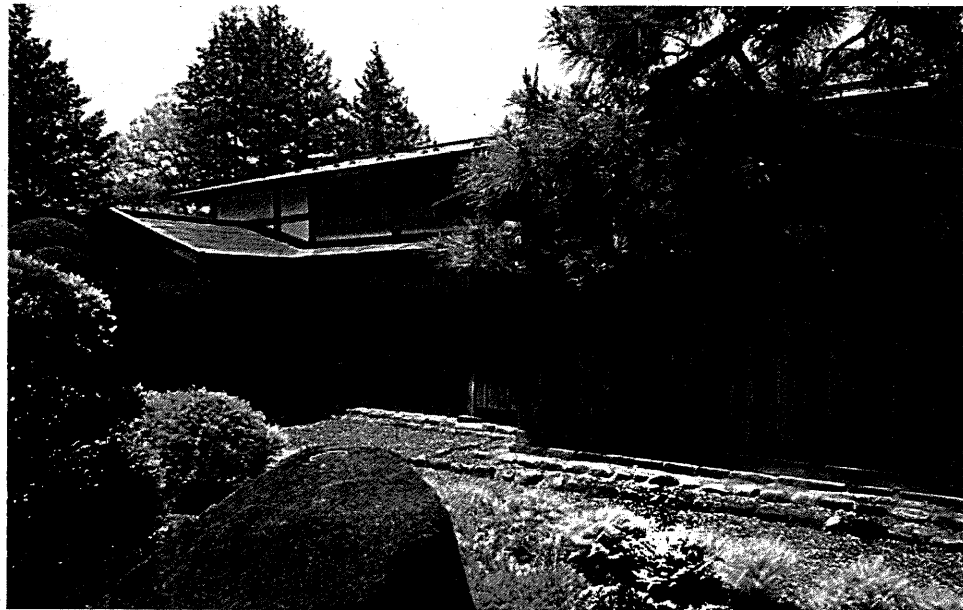
Tel：0172-82-1642

・ 休館日

	4 月～6 月	7 月～10 月	11 月	12 月～3 月
旧伊東家住宅	なし	火・金	月～金	月～金、12/29～1/3
旧梅田家住宅		8/13		全日
旧岩田家住宅		月・木		月～金、12/29～1/3
旧笹森家住宅		8/13		

※臨時開館：ねぷたまつり・菊と紅葉まつり・雪灯籠まつり期間中

旧伊東家住宅（県重宝）



この建物は、藩政時代に代々藩医を務めた伊東家の居宅として、今から約 200 年前の 19 世紀初期に市内元長町に建てられたものを、昭和 53 年に弘前市が伊東凌二氏から譲り受けたものです。その後、移築・復元工事を行って昭和 55 年 12 月から一般に公開し、平成 17 年には県重宝に指定されています。

石高 100 石前後の中級武士の居宅によく似た構造や特徴を残すこの建物は、東を正面とする玄関を式台構えとし、1 間半の広間、座敷、板の間、次の間、常居をほぼ正方形にとり、各部屋に長押しを廻しています。座敷の背後に納戸を設け、座敷の次の間の北側に半間の縁がつきます。また、広間と常居の上には、1 室となった中 2 階が造られ、東面には 2 間の格子窓がつきます。なお、建物西側裏手は明治時代の改造により原型が定かではないため、寄贈後の解体前のままとしています。座敷は、簡素ながらも剛質な造作をした床と違い棚を組み合わせ、藩政時代の落ち着いた住宅空間を生み出しています。また、現代の建物では見られなくなった式台、板大戸、板雨戸、囲炉裏、格子窓、障子窓のほか、天井の張られていない部屋や土壁、通り土間などからの往時の様子が偲ばれます。

◆ 記念スタンプ ◆

旧梅田家住宅



この建物は、約 160 年前の江戸時代末期、嘉永年間に建てられた武士の住宅で、市内在府町にあったものを昭和 57 年に弘前市が梅田彦一氏から譲り受けたものです。市では、移築・復元工事を行い、昭和 60 年 8 月から一般に公開しています。

全体的に南面と東面は開口部が多く開放的な雰囲気を持つのに対して、西面は勝手口のほか窓が、1 ヶ所、北面は煙出しと思われる高窓を 1 階に設け、2 階の窓を開くだけの閉鎖的な造りになっています。これは、冬期間の北西からの季節風に対応したものと考えられます。

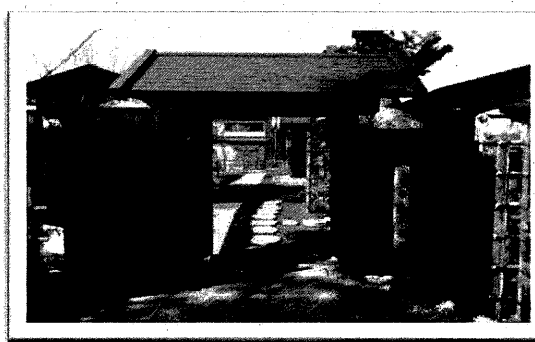
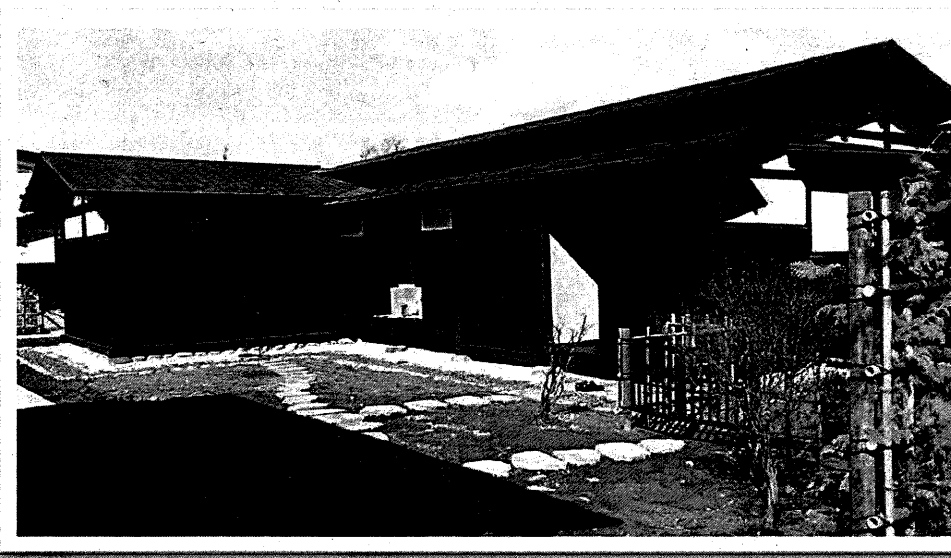
特徴的なのは、建物の建築年及び当初の居住者を推定しうる墨書が調度品に残されており、社寺や城郭を除く江戸時代の建築物では非常に貴重なものです。

この調度品は、台所にある大型の戸棚（当地で「風呂棚」という）で、引出しの裏に「嘉永五壬子年森新次郎代云々」と書かれており、置かれていた場所の床板がほかに比べてほとんど汚れていなかったことから、この戸棚は建築当初からその位置で使われていたものと考えられます。また、建物の材料調査や居住者の変遷からもこの年代が妥当と考えられます。

◆ 記念スタンプ ◆

旧弘前藩諸士住宅

（旧笹森家住宅・重要文化財）



この建物は、宝暦六年（1756 年）の「御家中屋舗建屋図」（いわゆる武家住宅図台帳）に、佐々森（笹森）傳三郎の家として、平面図が記載されています。

建築当初、仲町地区内北東部の小人町にあったものを、平成 7 年に所有者の小野氏から市が主屋と門の寄贈を受けたもので、解体した部材を一時保存し、平成 24 年に現在地に移築復元しました。

建築年代が江戸時代中期で、同保存地区内で現存する最古の武家住宅として確認でき、座敷、常居等主要な部分の間取りが建築当初から変わらず、部材も当初からのものが多く残っています。

小規模な住居ですが、玄関から広間を通り、床の間・縁側を設けた座敷に至る、接客を重んじる間取りなど、弘前城下における中・下級の武家住宅の建築様式を伝える遺構として極めて重要です。

◆ 記念スタンプ ◆